



農作業メモ

イネ縞葉枯病対策と

これからの麦管理について

ヒメトビウンカに注意

熊谷市で多く作付けされているキヌヒカリは縞葉枯病罹病性の品種です。昨年、縞葉枯病の大発生が心配されましたが箱施薬剤等による防除の徹底により軽微な発生で済みました。しかし、引き続き発生が懸念されていますので埼玉県病害虫防除所ホームページの予察情報に注意し防除を徹底しましょう。

▼イネ縞葉枯病の特徴▲

この病気（左上写真：縞葉枯病発生株）は「ヒメトビウンカ」（左下写真：雄成虫、体長約3ミ）が媒介する病気です。

麦類や
畦畔雑草
地を増殖
し、水田



や苗床に飛来し、吸汁時にウイルスを媒介します。

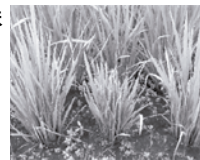
特に、イネの生育初期から幼穂形成期までにウイルス感染すると重症化します。

▼防除方法▲

キヌヒカリやコシヒカリは縞葉枯病抵抗性品種ではないので防除が必須です。

5月中下旬に水稻の苗に飛来するヒメトビウンカを育苗中から移植時に初期防除することがポイントです。表1の薬剤を参考に防除しましょう。

なお、「彩のかがやき」や「彩のきずな」は縞葉枯病の抵抗性品種でありますが安心することはできません。「黒すじ萎縮病」への抵抗性がないため、ヒメトビウンカの吸汁により、「黒すじ萎縮病」が発病します。昨年、「黒すじ萎縮病」（右下の写真）が発生したほ場では、必ず育苗箱への箱施用を行いましょう。



イネ黒すじ萎縮病罹病株
(前列真ん中)

表1 ウンカ類の防除薬剤例
(箱施薬剤)

薬剤名	系統	使用時期	使用回数
ルーチンアドスピノ箱粒剤	ネオニコチノイド マクロライド 酸アミド	は種前、 は種時 (覆土前) ～移植当日	1
ツインターボフェルテラ箱粒剤	ネオニコチノイド ジアミド 酸アミド	は種時 (覆土前) ～移植当日	1

(記載農業は平成27年3月4日現在)

▼内穎褐変病の対策▲

この病気は、出穂数日後から内穎の一部が褐変し始め、その後内穎全体に褐変症状が広がります。発病期の玄米は茶米や死米などになり品質が低下しますので予め箱施薬剤等で防除しましょう。なお、表1の薬剤の中でルーチンアドスピノ箱粒剤は内穎褐変病にも登録されています。

麦の適期収穫

今後、気温は概ね平年並に経過するとされており、麦は順調に生育すると予想されます。高品質・安定生産に向けて、今後、以下の対策を実施しましょう。

▼追肥▲

小麦「さとのそら」は出穂2週間前（4月始め）に10^ア当たり窒素成分で2^ア程度を施用します。特に今までタニパク含有率が低いほ場では追肥を必ず行ってください。

▼排水作業▲

近年、麦の生育後半にまとまった降雨が多くあります。麦踏み等で排水路が埋もれていないか確認し、明きよの補修をしっかりと行いましょう。特に生育の遅れているほ場では湿害の影響を受けやすいので、排水対策を万全にしましょう。

農業を使用する際は必ずラベルを確認しましょう。

(大里農林振興センター 農業支援部)